

金澤市ノ一小學校兒童約一千名ニ 施行セル集團檢診成績

第1報 マンロー氏反應施行成績

金澤醫科大學小兒科學教室(主任泉教授)

講 師	醫學 士	金 原 忠 男	醫學 士	今 井 九 彌
		<i>Tadao Kanahara</i>		<i>Kiyuya Inai</i>
醫 學	士	西 村 忠 恕	醫 學	士 田 邊 清
		<i>Tadahiro Nishimura</i>		<i>Kiyosi Tanabe</i>
醫 學	士	館 孔 三	醫 學	士 手 塚 武 雄
		<i>Kôsô Tati</i>		<i>Takeo Tezuka</i>

(昭和15年4月30日受附)

(本論文ノ一部ハ第42回日本小兒科學會金澤地方會デ發表シタ)

内 容 抄 録

余等ハ昭和14年2月上旬ヨリ5月上旬ニ亘リ、金澤市内一小學校兒童一千名(自1年生至6年生)ニツキ、傳研舊「ツベルクリン」2000倍稀釋液0.1cc宛ヲ以ツテマンロー氏皮内反應ヲ施行シ、總陽性率 36.30 ± 1.52

%, 中、男兒陽性率 $34.10 \pm 2.06\%$ 、女兒陽性率 $38.74 \pm 2.36\%$ ナル成績ヲ得タ。

而シテ該成績ト本邦主要都市ノ此ノ種調査成績トヲ比較考察シタ。

目 次

第1章 緒 論	第2節 陽性程度ト年齢別及ビ男女別
第2章 検査資料及ビ方法	第4章 總括及ビ考按
第1節 検査資料	(1) 總陽性率ニ就テ
第2節 検査方法	(2) 年齢別、男女別及ビ陽性度分布ニ就テ
第3章 検査成績	第5章 結 論
第1節 總陽性率、年齢別陽性率及ビ男女別陽性率	参考文献

第1章 緒 論

事變ヲ契機トシ我國ハ物的資源ト共ニ、人的資源ノ確保ヲ愈々緊要トスルニ至ツタ。然ルニ

一方我國民特ニ青年壯丁ニ於テ、最近體位低下ノ傾向アルヲ叫バレルニ至ツタ事ハ寒心ニ堪ヘナイ次第デアル。茲ニ於テ次代ノ國民タル小兒、就中小學兒童ノ保健、體位向上ノ問題ハ更ニ一層重要性ヲ加ヘテ來タ。既ニ各地小學校ニ於テ、特ニ虛弱兒童ノ養護ニツイテハ、學校衛生ノ重要ナル事業トシテ種々ノ特殊施設ヲ講ゼラレテキル。

抑、虛弱兒童ナル名稱ハ甚ダ漠然トシテ居リ、其ノ構成因子モ元ヨリ種々アルベク、從ツテ之ガ選定、並ニ養護ヲ適切ニスルニハ種々ノ特殊調査ヲ要スルハ勿論デアル。然ルニ斯ル調査ハ相當ノ困難ヲ伴フ故ニ一般ニ實施ヲ見ズ、從來ノ選定ハ多クハ甚ダ杜撰、不徹底ナルヲ免レナカッタ。

今回文部省ハ全國ノ大學中、東京、大阪、九州、及ビ金澤ノ4ヶ所ヲ選ビ夫々所在地ノ小學兒童約一千名ニツキ、虛弱兒童ニ關スル特殊調査ヲ依囑シタ。

本調査ハ單ニ兒童ノ身體發育狀況許リデナク、疾病異常ニ關シテハ、本人ノ既往症、體質の動向、學校ニ於ケル健康度、家族兩親ノ健康状態、連續體溫ノ測定、並ニ一般診察ノ外更ニ「ツベルクリン」皮内反應及ビ胸部ノ「レントゲン」検査、特ニ撮影ヲ全部ニツキ行ヒ、結核ノ感染及ビ罹患ノ状態ヲ簡明ニシ、此ノ種調査トシテハ相當詳細且ツ廣汎ナルモノデアル。從ツテ其ノ調査結果ニヨリ虛弱兒童ナルモノノ分布、意義モ可成明確ニサレ得ル事ト信ズル。

余等ハ金澤醫科大學小兒科學教室ニ於テ、昭

和14年春、市内ノ一小學校兒童約一千名ニツキ本調査ニ從事シタ。此ノ機會ニ金澤地方ニ於ケル検査成績中特ニ「ツベルクリン」皮内反應、及ビ之ニ關聯シタル若干事項ニツキ、以下項ヲ分チ二、三ノ統計の報告ヲ發表スル次第デアル。

其ノ中、第1報トシテ、先ヅマンロー氏反應ノ成績ニツイテ總括的ニ述ベル事トスル。

抑、「ツベルクリン」反應ハ Pirquetニ創始セラレ、Mendel, Mantoux und Roux等ニヨリ皮内反應ガ案出サレルヤ、本反應ハ即チ、所謂マンロー氏反應トシテ臨床上小兒結核感染ノ有無ヲ決定スル上ニ最モ確實デアリ、且ツ操作簡單ナル故廣ク實地ニ應用セラル、ニ至ツタ。

又近年我國ニ於テ、小兒結核ノ問題ガ盛ンニ研究サル、ニツレ、殊ニ發病豫防ノ見地ヨリ學童ノ結核感染状態ハ重要視セラレ、之ガ爲各地ニ於テ盛ンニ學童ノマンロー氏反應實施セラル、ニ至リ、其ノ報告モ一々枚舉ニ遑ナキ程デアル。

我ガ北陸地方、殊ニ石川縣ハ從來結核濃厚地トシテ知ラレ、特ニ金澤市ハ最モ濃厚都市トシテ唱ヘラレテキルガ、當市ノ學童ニ於ケル結核感染状態ノ調査ニ關シテハ從來僅ニ吉見、松田氏等ノピルケー氏反應ノ施行アルノミデ、殊ニマンロー氏皮内反應ハ未ダ系統的ニ實施セラレタルモノハ殆ド無イ状態デアル。從ツテ此ノ金澤市内ノ小學校兒童ニツイテ余等ノ行ツタマンロー氏反應ニヨル結核感染状態ノ成績ヲ報告スルノハ又意義ガアルト信ズル次第デアル。

第2章 検査資料及ビ方法

第1節 検査資料

金澤市某尋常小學校兒童1年生カラ6年生迄總數約一千名ニ就キ調査シタ。同校ハ金澤市ノ略々中央部ニ當リ、家庭ノ生活程度ハ全體トシテ中流、若シクハ上流ニ位スル。

時期ハ昭和14年2月上旬ヨリ5月上旬ニ亘ツタノデ便宜上年齡ノ計算ハ昭和14年3月末日現在ノ滿年齢ヲ以ツテアラハシタ。即チ6年7ヶ月カラ7年6ヶ月迄

ヲ7歳トシ、以下之ニ準ジタ。從ツテ年齢ハ7歳カラ13歳ニ亘ツタ。

兒童ハ文部省ノ指示スル規定ニ從ヒ、先ヅ身體諸計測、體溫測定ヲ行ヒ、本人ノ既往症、家族ノ状況等ヲ調査シタル後、當大學附屬醫院小兒科外來診察室ニ於テ一般の診察、胸部「レントゲン」寫眞撮影、及ビ必要ト認ムルモノハ更ニ「レントゲン」透視ヲモ行ヒ、特ニ結核性病の所見ノ著シイモノ6名ニハ、先ヅピルケー

氏反應ヲ行ヒ、其他ノ一般ノモノニハマントー氏反應ヲ施行シタ。

第2節 検査方法

東京傳染病研究所製ノ舊「ツベルクリン」液ヲ施行前日滅菌生理的食鹽水デ2000倍ニ稀釋シタルモノヲ用ヒ、之ヲ「ツベルクリン」注射器ニ吸引シ、其ノ0.1cc宛ヲ、兒童ノ左前膊屈側中央部皮内ニ注射シタ。而シテ注射後ハ局所ニ何等處置ヲ施サズ、抓搔、入浴ヲ禁ジタノミデアツタ。

成績ノ判定ハ48時間後ニ行ヒ、發赤、浸潤ノ大サ、及ビ水泡形成、壞死、淋巴管炎ノ有無ヲ記載シタ。而シテ反應ノ程度ヲ便宜上符號ヲ以ツテ表ハシタ。即チ

發赤部ハ多ク橢圓形ヲ示ス故、其ノ長徑及ビ短徑ヲ測定シ、兩徑ノ算術平均ヲトリ、0-4mmヲ(-)、4.5mmヲ(±)、5-10.5mmヲ(+)、11-20.5mmヲ(++)、21mm以上ヲ(+++)トシ、水泡、壞死、淋巴管炎ヲ伴フモノヲ(++++)トシタ。

茲ニ陽性ノ判定標準ニ就テハ未ダ諸家ニヨリ區々ニシテ一定セヌガ、余等ハ比較的多ク用ヒラレテキル發赤ノ直徑5mm以上ヲ陽性トスル事ニシタ。但シ此ノ場合上記ノ(±)ノ符號ノモノハ少數ニ認メラレタガ、是等ハ實際測定ノ際ハ長徑ガ5mm以上ノモノナル故、比較ノ便宜上之ヲ陽性者ノ中ニ加ヘル事トシタ。

第3章 検査成績

第1節 總陽性率、年齢別陽性率及ビ男女別陽性率

第1表 年齢別陽性率及ビ總陽性率

年齢	検査人員	陽性者	陽性率(%)
7歳	98	36	36.73±4.86%
8歳	182	44	24.18±3.17%
9歳	151	51	33.77±3.84%
10歳	167	69	41.32±3.81%
11歳	162	71	43.83±3.89%
12歳	179	64	35.76±3.58%
13歳	61	28	46.77±6.38%
合計	1000	363	36.30±1.52%

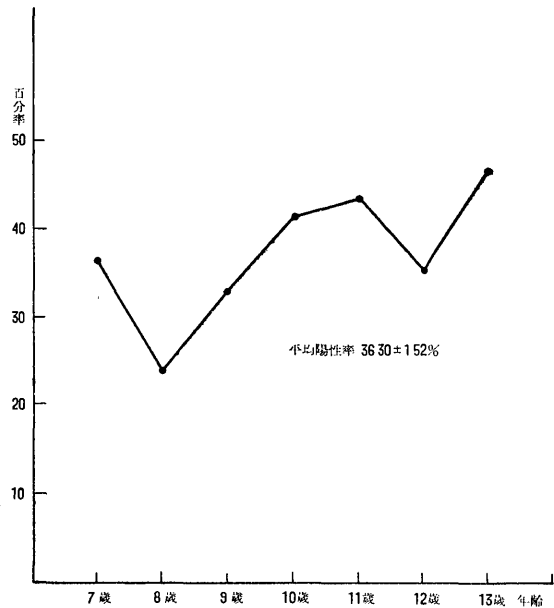
(備考ピルケー氏反應陽性者6名ヲ含ム)

第1表ヲ「グラフ」ニスレバ第1圖ノ如クナル。

上記第1表ノ如ク、検査人員總數1000名ニ對スル總陽性率ハ、36.30±1.52%トナリ、年齢的ニ見レバ、8歳ノ陽性率ハ、24.18±3.17%デ最モ低ク、13歳ノ陽性率ハ、46.77±6.38%デ最モ高ク、「グラフ」デ示セバ、8歳、9歳及ビ12歳ニ夫々稍低率ヲ示シタ外ハ、大體年齢ノ増加ト共ニ陽性率モ高マツテキル。

次ニ男女別ニツイテ見ルニ、第2表ノヤウニ、男兒總數525名ノ陽性率ハ34.10±2.06%ト

第1圖



ナリ、女兒總數475名ノ陽性率ハ38.74±2.36%デ、女兒ハ男兒ヨリ4.64%ノ高率ヲ示シテキルガ、更ニ年齢別ニ此ノ關係ヲ見テモ、女兒ハ10歳ニ於テ男兒ヨリ稍低率ナル外ハ何レモ男兒ヨリ高率ヲ示シ、特ニ11歳、12歳、13歳ノ高年齢ニ於テ其ノ差違ノ稍顯著ナル事ハ注目スベキ點デアル。

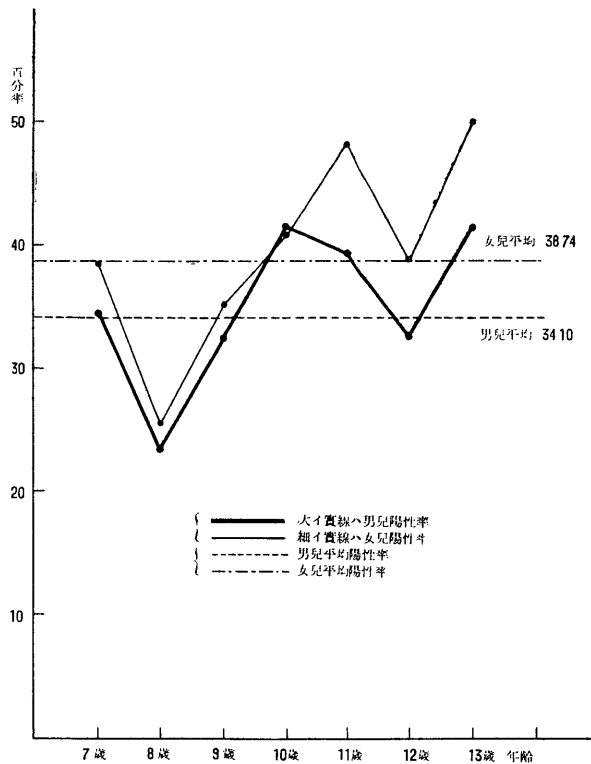
第2表ヲ「グラフ」ニスレバ第2圖ノ如クナル。

第 2 表 男女別陽性率

年 齡	男 兒			女 兒		
	検査人員	陽性者	陽性率(%)	検査人員	陽性者	陽性率(%)
7 歳	46	16	34.78±7.01	52	20	38.46±6.74
8 歳	107	25	23.36±4.09	75	19	25.33±5.02
9 歳	74	24	32.43±5.44	77	27	35.06±5.43
10 歳	101	42	41.58±4.90	66	27	40.91±6.05
11 歳	79	31	39.24±5.49	83	40	48.19±5.48
12 歳	89	29	32.58±4.96	90	35	38.89±5.13
13 歳	29	12	41.38±9.14	32	16	50.00±8.83
合 計	525	179	34.10±2.06	475	184	38.74±2.36

(備考ビルケー氏反應陽性者 6 名ヲ含ム)

第 2 圖



第 2 節 陽性程度ト年齢別及ビ男女別
次ニ陽性反應ノ程度ニヨル分布ヲ見ルト、下記第 3 表 (甲及ビ乙) ニ見ルヤウニ、總計ニ於テ、(卅)反應ハ陽性反應者總數(±+卅)357 名ノ

中 143 名デ、百分率デハ 40.05%ヲ占メ最モ多ク、(卅)反應ハ 86 名、24.08%、(+)反應ハ 76 名、21.28%デ之ニ次ギ、(卅)反應ハ 45 名、12.6%デ遙カニ少ク、(±)反應ハ僅カニ 7 名、1.96%デ

最モ少イ。即チ(++)反應以上ノ強反應ハ合計274名, 76.73%トナリ大部分ヲ占メテキル。

又年齢別ニ見ルニ, (++)及ビ(++)反應ハ大體年齢ノ高キモノニ多ク出現ヲ見タガ, (+)及ビ(++)反應ハ却ツテ其ノ關係ハ反對トナツタ。然シ(++)以上ヲ強陽性ト見テ總括スレバ, 概シテ9歳以上ノ高年齢ニ強陽性反應ガ多ク現ハレル結果ヲ示シタ。

第3表 (甲)年齢別陽性程度分布 (實數)

陽性程度 年齢	(±)	(+)	(++)	(+++)	(++++)	合計
7 歳	1	12	5	13	5	36
8 歳	4	11	5	15	9	44
9 歳	0	9	6	20	12	47
10 歳	0	14	18	26	9	67
11 歳	1	11	24	32	3	71
12 歳	1	14	18	26	5	64
13 歳	0	5	10	11	2	28
合計	7	76	86	143	45	357

(備考ピルケー氏反應陽性者6名ハ含まズ)

第3表 (乙)年齢別陽性程度分布 (百分率)

陽性程度 年齢	(±)	(+)	(++)	(+++)	(++++)	(++)→(+++) (強陽性)
7 歳	2.77	33.33	13.88	36.11	13.88	63.87
8 歳	9.09	25.00	11.36	34.09	20.45	65.90
9 歳	0	19.14	12.76	42.55	25.53	80.84
10 歳	0	20.89	26.86	38.80	13.43	79.09
11 歳	1.40	15.49	38.80	45.07	4.22	88.09
12 歳	1.56	21.87	28.12	40.62	7.81	76.55
13 歳	0	17.85	35.71	39.28	7.14	82.13
合計	1.96	21.28	24.08	40.05	12.60	76.73

第4表 男女別陽性度分布

陽性程度 年齢	男 児						女 児					
	(±)	(+)	(++)	(+++)	(++++)	合計	(±)	(+)	(++)	(+++)	(++++)	合計
7 歳	1	5	3	5	2	16	0	7	2	8	3	20
8 歳	2	7	4	7	5	25	2	4	1	8	4	19
9 歳	0	4	4	11	3	22	0	5	2	9	9	25
10 歳	0	5	10	19	6	40	0	9	8	7	3	27
11 歳	0	8	9	12	2	31	1	3	15	20	1	40
12 歳	1	7	10	8	3	29	0	7	8	18	2	35
13 歳	0	1	4	6	1	12	0	4	6	5	1	16
合計	4	37	44	68	22	175	3	39	42	75	23	182
百分率	2.29	21.14	25.14	38.86	12.57	100	1.65	21.43	23.08	41.20	12.64	100

第4表ニ於テ、男女別ニヨル陽性強弱度ヲ見ルニ全ク第3表ノ關係ト同ジク、即チ男女共ニ

(卅)反應率最モ多ク、次ニ(卅)、(+), (卅)反應ノ順序デ、(±)反應ハ極僅少デアル。

第4章 總括及ビ考按

(1) 總陽性率ニ就テ

先ヅ上述ノ余等ノ金澤市ニ於ケル調査成績ト、當金澤醫科大學衛生學教室ニ於テ、古屋教授及ビ教室員ガ福井市ニ於テ小學兒童3876名ニツキ調査セル成績トヲ比較スルニ、第5表ノ如ク金澤市ノ陽性率ヨリ遙カニ低率トナツテキル。同ジク結核濃厚地方ニ於ケル都市トシテ、カ、ル大差ヲ示シタル事ハ些カ意外ノ感ガアルガ、其ノ真相ニツイテハ更ニ今後ノ此種調査ニ

ヨツテ檢討ノ要ガアルト信ズル。

當金澤市内ニ於ケル學童ノ結核感染狀態ヲ調査シタモノトシテハ緒言ニ述ベタ吉見及ビ松田氏ガ昭和8年學童及ビ一部幼稚園兒587名ニビルケー氏皮膚反應ヲ行ツタ成績ガアルガ、之ヲ見ルニ、其ノ總陽性率ハ41.4%トナツテ居リ、余等ノマントー氏反應成績ニ比シ其ノ陽性率ハ稍高率ヲ示シテキル。然シ之ハ實施方法其他ニ相違ノ點ガアルカラ兩者ヲ同日ニ論ズル譯ニハ

第5表 福井市小學兒童マ氏反應成績 (古屋氏等ニヨル)

年 齡	男 子			女 子		
	被檢數	陽性者	陽性率 (%)	被檢者	陽性者	陽性率 (%)
6 歲	194	35	18.04	210	35	16.66
7 歲	304	61	20.07	323	63	19.50
8 歲	250	48	19.20	278	57	20.50
9 歲	325	79	24.31	282	58	20.57
10 歲	284	83	29.23	332	88	26.51
11 歲	276	88	31.88	229	80	49.34
12 歲	208	62	29.81	128	35	27.34
13 歲	179	68	37.99	74	28	37.84
計	2020	524	25.94	1856	444	23.92
男女合計	3876	陽性者總數 968		平均陽性率 24.97%		

ユカヌ。

次ニ本邦内地其他主要都市ニツキ諸家ノ報告セル成績(第6表)ト比較シテミルニ、

宇留野(廣島市)、岩崎(大阪市)、岩淵(東京市)、新井(東京市)、田中(名古屋市)ノ諸氏ノ陽性率ハ夫々40%以上デ、金澤市ヨリ高率ナルモ、

高橋(潤)(名古屋市)、井出、渡邊(水戸市)、渡邊(水戸市)、金井、清水(札幌市)ノ諸氏ノ成績ハ30%以下ニシテ、金澤市ヨリ遙カニ低率ヲ示シ、タダ野村氏(東京市)ノ陽性率ト略々伯仲

シテキル。勿論是等ノ成績ハ其ノ檢査方法ノ諸點、例之「ツベルクリン」液ノ稀釋度、同液ノ注射量、判定方法ノ標準及ビ年齢等ニ於テ多少ノ相違ガアリ、ソレラガ陽性率ニ及ボス影響ヲ考慮ニ入レル必要ガアル。

尙田中氏等ニヨル是等各都市ノ成績ヲ總括集計シタモノト、余等ノ成績トヲ比較スルト第7表ノ如ク、金澤市ノ陽性率ハ内地都市平均ニ比シ稍低率ナル結果ヲ示シテキル。即チ余等ノ成績カラ云ヘバ、金澤市學童ノ結核感染率ハ必ズシモ全國主要都市中ノ高位デハナイ様デアル。

第 6 表 本邦各都市學童マントー氏反應成績 (田中氏等ニヨル)

報告者	總人員	陽性者	陽性率 (%)	場 所	年代	學童 年齡	注射量 (c.c.)	稀釋度	判定時間	陽性標準	備 考	
宇留野	964	435	45.1	廣島市	昭4	7-14	0.04	400倍	24時間	7mm以上	貧困階級多シ 反應不明ノモノ50名	
岩崎	1405	605	43.1	大阪市	〃	6	7-12	0.05	5000〃	48〃		7mm以上
野村	4917	1782	36.24	東京神田區	〃	6	7-14	0.1	10000〃	48〃		10mm以上
岩淵	2388	2050	85.9	東京荒川區	〃	8	7-14	0.1	2000〃	48-72〃		7mm以上
新井	2798	1177	42.0	東京小石川區	〃	10	7-15	0.1	2000〃	48〃		5mm以上
井出, 渡邊	1456	277	18.99	水戸市	〃	11	7-14	0.1	2000〃	48〃		7mm以上
渡邊	438	98	22.37	水戸市	〃	11	7-14	0.1	2000〃	48〃		7mm以上
金井, 清水	558	141	25.3	札幌市	〃	11	7-14	0.1	1000〃	24-48〃		5mm以上
田中等	2859	1172	40.99	名古屋市	〃	13	7-12	0.1	100〃	48〃		5mm以上
高橋潤等	2596		26.54	名古屋市	〃	9	7-14	0.1	1000〃	48〃		7mm以上

第 7 表 本邦内地都市集計 (田中氏等ニヨル)

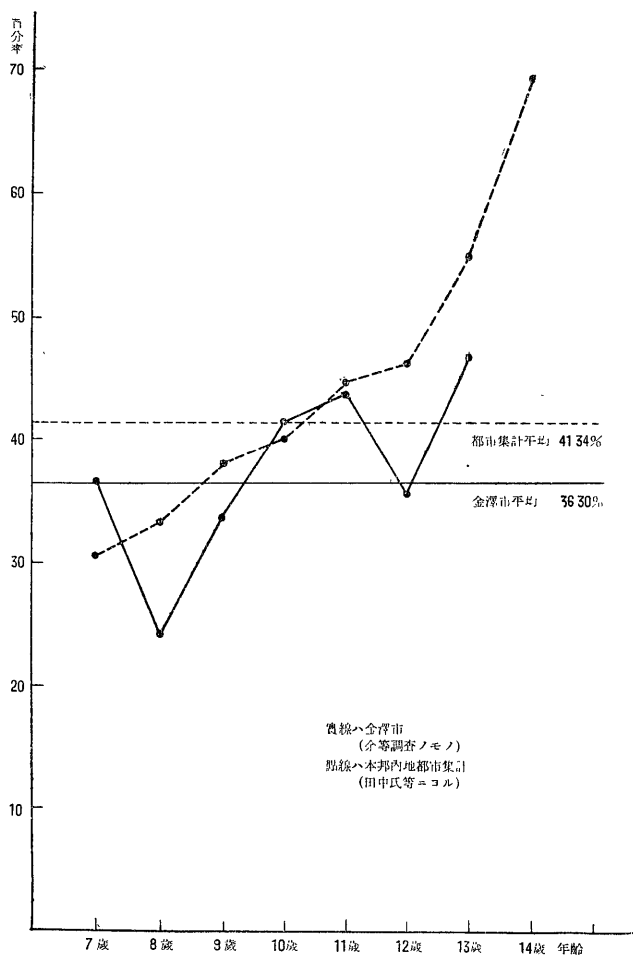
男 女 別					年 齡 別		
年 齡	性別	検査人員	陽性者	陽性率 (%)	検査人員	陽性者	陽性率 (%)
7 歳	男	1613	489	30.32	3117	957	30.70
	女	1504	468	31.14			
8 歳	男	1448	470	32.67	2988	993	33.23
	女	1540	523	33.96			
9 歳	男	1346	521	38.71	2785	1059	38.04
	女	1439	538	37.39			
10 歳	男	1390	540	38.85	2789	1121	40.20
	女	1399	581	41.57			
11 歳	男	1454	652	44.84	2927	1305	44.58
	女	1473	653	44.32			
12 歳	男	1560	722	46.15	3091	1425	46.10
	女	1531	703	45.92			
13 歳	男	1074	606	56.98	2072	1141	55.07
	女	998	535	53.61			
14 歳	男	328	238	72.56	610	423	69.34
	女	282	185	65.60			
合 計	男	10213	4238	41.50	20379	8424	41.34
	女	10166	4186	40.19			

本邦内地都市集計(田中氏等ニヨル)ト余等ノ調査成績トノ比較ヲ「グラフ」ニ示セバ第3圖ノ如クナル。

(2) 年齢別, 男女別及ビ陽性度分布ニ就テ

年齢ノ増加ニ從ヒ一般ニ陽性率ノ高クナル事ハ諸家ノ一致シタ所デアル。タダ調査數ノ比較の少キ時ハ, 偶發的の偏在ニヨツテ陽性率ハ時ニ前後ヲ示ス事ハ諸家モ指摘シテキル所デアル。

第 3 圖



實線ハ金澤市
(全等調査ノモノ)
虚線ハ本邦内地都市集計
(田中氏等ニコル)

余等ノ場合モ8歳及ビ12歳ニ於ケル低率ハ恐ラク偶發的偏在ニヨル事ト思ハレル。

性別的ニハ男子ノ方ガ女子ヨリ高率ナル報告者(坂井, 齋藤, 岩淵, 橋積, 鄭, 井出, 渡邊氏等)ガアリ, 又女子ガ男子ヨリ高率ナリトシタ報告(草野, 宇留野, 西堀, 有馬氏等)アリ, 更ニ兩者差違ナシトスル報告(井上, 高橋, 野村氏等)モアツテ一定シナイ。而シテ余等ノ場合ハ女兒ガ男兒ニ比シ高率ヲ示シタ。此ノ性的差違ニツイテハ, 古屋氏等ハ何レノ年齢階級ニモ誤差論的ニハ有意義ト思ハレルモノヲ見ナイト言ヒ, 廣範圍ノ調査デハ大體兩者ノ相違ハ大シテナキモノト見做サレテキル。

次ニ反應陽性度ノ分布ト年齢ノ關係ニツイテハ, 野村, 岩淵, 宇留野, 田中氏等ハ, 年齢ノ増加ト共ニ強陽性反應者ガ増加スルト唱ヘタガ, 井出, 渡邊氏等ハ陽性程度ハ一様ニ年齢的ニ増加セルヲ認メ, 又飯尾氏等ハ(++)反應ハ増加シタガ, (++)反應ハ却ツテ年齢ノ増加ト共ニ減少セルヲ報告シタ。

余等ノ場合ハ上述ノ如ク(++)及ビ(+++)反應ハ大體年齢ノ増加ニツレテ増加シタガ(+++)反應ハ却ツテ反對ニ減少ヲ示シタ。然シ(+++)以上ヲ總括シテ言ヘバ, 概シテ年齢的ニ強反應者ガ増加スル様デアル。

第5章 結 論

1) 余等ハ金澤市某小學校兒童1年生ヨリ6年生(7歳ヨリ13歳)迄總數1000名(内男兒525名, 女兒475名)ニツイテマンロー氏反應ヲ施行シタ。

2) マンロー氏反應陽性者總數ハ363名ニシテ, 陽性率ハ $36.30 \pm 1.52\%$ トナリ, 内性別デハ男兒陽性者總數179名, 陽性率 $34.10 \pm 2.06\%$, 女兒陽性者總數184名, 陽性率 $38.74 \pm 2.36\%$ デ, 女兒ノ方ガ男兒ヨリ 4.64% 高率ヲ示シタ。

3) 年齢別ニ見タ 陽性率ハ8歳ニ於テ $24.18 \pm 3.17\%$ デ最低率, 13歳ニ於テ $46.77 \pm 6.38\%$ デ最高率ヲ示シタガ, 大體年齢ノ増加ト共ニ陽性率ノ増大スルノヲ認メタ。

4) 陽性反應程度ニヨル分布ヲ見ルト, (卅)

反應ハ各年齢ヲ通ジテ最モ出現率多ク, 平均 40.05% トナリ, 之ニ次ギ(卅)反應ハ 24.08% , (+)反應ハ 21.28% , (卅)反應ハ 12.60% ノ順トナリ, (±)反應ハ 1.96% デ最モ僅少デアツタ。此ノ順序ハ男女別デモ全ク同様ノ關係トナツタ。又(卅)及ビ(卅)反應ハ年齢ノ増加ト共ニ多ク出現スル傾向ヲ認メタガ, (+)及ビ(卅)反應ハ却ツテ年齢ノ増加ト共ニ減少ノ傾向ヲ示シタ。然シ(卅)乃至(卅)反應全體ヲ強反應トシテ總括的ニ見レバ, 年齢ノ増加ト共ニ大體増加シテ出現スル様ニ思ハレル。

御指導御校閱ヲ忝フセル恩師泉教授ニ滿腔ノ謝意ヲ表スル。

参 考 文 獻

1) 宇留野勝彌, 診断ト治療. 第16卷, 1176, (昭和4年). 2) 岩崎彌一郎, 結核, 第9卷, 1396, (昭和6年). 3) 野村禮之, 日本學校衛生, 第20卷, 455, (昭和7年). 4) 岩淵要, 日本醫事週報, 第1927號, (昭和8年). 5) 高橋潤二, 結核, 第12卷, 124, (昭和9年). 6) 新井英夫, 學校衛生, 第15卷, 353, (昭和10年). 7) 伊坂春, 結核, 第14卷, 1017, (昭和11年). 8) 金井進, 清水寛, 結核, 第15卷, 262, 405, (昭和12年).

9) 原隆一外14名, 城大小兒科雜誌, 第10號, (昭和12年). 10) 吉見通義, 松田治郎, 十全會雜誌, 第38卷, 3310. 11) 田中市次外5名, 兒科診療, 第4卷, 932, (昭和13年). 12) 宇留野勝彌, 兒科診療, 第4卷, 621, (昭和13年). 13) 古屋芳雄, 民族生物學研究, 第6輯, 1938. 14) 栗山重信, 醫事公論, 1377號, (昭和13年). 15) 平澤精藏, 醫事公論, 1377號, (昭和13年).